

「終末期医療に関するアンケート」()は% 回収率：67%

	～64歳	65歳～	75歳～	不明	計
男	9 (27)	15 (45)	9 (27)		33 (100)
女	51 (38)	60 (44)	24 (18)	1	136 (100)
不明		3			3
計	60 (35)	78 (45)	33 (19)	1	172 (100)

1. もしあなたが末期のがんにかかり、余命が限られているとしたら、どのような療養生活を送りたいですか。～自宅での療養を希望される場合、実現は可能だと思われますか。

末期を過ごす場所		実現可能	実現困難	分からない	計
① 最期まで自宅	男	5	5	1	11
	女	13	9	11	33
	計	18 (41%)	14 (32%)	12 (27%)	44 (28%)
② 自宅 ⇒これまでの病院	男	4	3		7
	女	2	3	2	7
	計	6	6	2	14
③ 自宅 ⇒ホスピス	男	3	4	1	8
	女	21	33	21	75
	計	24 (29%)	37 (45%)	22 (27%)	83 (52%)
④ 早い段階から これまでの病院	男	1	1		2
	女		2	1	3
	計	1	3	1	5
⑤ 早い段階から ホスピス	男				
	女	1	1	1	3
	計	1	1	1	3
⑥ 分からない	男	1	1	1	3
	女	1	4	3	8
	計	2	5	4	11
計	男	14	14	3	31
	女	38	52	39	129
	計	52 (33%)	66 (41%)	42 (26%)	160 (100%)

2. もしあなたのご家族が末期のがんにかかり、余命が限られているとしたら、どのような療養生活を送らせたいですか。

本人⇒家族		① 最期まで 自宅	② 自宅⇒ これまでの病院	③ 自宅 ⇒ホスピス	④早い段階から これまでの病院	⑤ 早い段階か らホスピス	⑥ 分からな い	計
① 最期まで自宅	男	6	3	1			1	11
	女	24	5	2			2	33
	計	30	8	3			3	44
② 自宅 ⇒これまでの病院	男	1	6					7
	女	1	3	3				7
	計	2	9	3				14
③ 自宅 ⇒ホスピス	男	1		7				8
	女	7	5	51	1	2	8	74
	計	8	5	58	1	2	8	82
④ 早い段階から これまでの病 院	男		1			1		2
	女		1		1		1	3
	計		2		1			3
⑤ 早い段階から ホスピス	男							
	女			3		1		4
	計			3		1		4
⑥ 分からない	男						6	6
	女	5	4	1			3	13
	計	5	4	1			9	19
計	男	8	10	8		1	7	34
	女	37	18	60	2	3	14	134
	計	45 (27%)	28 (17%)	68 (40%)	2	4	21	168

3. 自由記述：36人

男	～64歳	余命1年と言われたがんサバイバーです。がんと言われ今日まで生きて来ていますが、心はがんになった人しかできません。	
	65歳～	がんは3mm以下の場合、現在発見不能。早く血液で3mm以下のがん細胞発見に努力をお願いしたい。国立がんセンターでチームで研究中、見通しがついたとの情報を聞いています。	
		無理な延命は望まない。むしろ安楽死でもいいと思う。できるだけ普通に生活したい。	
		ホスピス病棟に入れるなんて夢のまた夢と思います。団塊の世代にとって、狭き門は一生続きました。	
	市民塾活動は大事な事だと考えます。頑張ってください。		
	75歳～	机上の空論でなく、現実を見てくれて良かった。	
女	～64歳	国や市には支援などはあるのか。自宅近くに訪問医療の病院が分からない。	
		家族がどんなふうに療養したいか。経済的な面で可能であれば、その意向にできるだけ添いたい。	
		家族も自分もまだ元気なので、考える機会がありませんでした。がんになるかどうかは分かりませんが、最期をどのように迎えたいか、家族と話し合う機会を持ちたいと思います。有名人（芸能人）の例などを出されたお話が、大変分かりやすかったです。有難うございました。	
		最後まで自宅で療養するには、訪問してくれるお医者さま、看護師さんがいることが必要だと思いますが、自分の家族の住んでいるところにいっしょにいらっしゃるかが不安です。	
		現実となればまた選択は変わると思います。	
		末期のがんの方を自宅で療養している方を見ましたが、家族の方は大変だと思いますが、家族にしてみれば悔いのない、本人も思い残さないと思いました。	
		必要になった時、ホスピスに入院できるとは限らないと思う。	
		自分のことは自分で決められるが、家族の場合は自分では決められない。自分の考え方を家族に押し付けることもできないから、家族については分かりません。	
		自宅で療養したい希望があります。しかし自宅での療養になると、家族を支え、医療（在宅での）、介護が必要です。それが可能なのが不安です。	
		ホスピス、緩和ケア病棟への入院を希望されても、ベッドの空きがなく、希望の時期に入院できない事もある。	
		最期まで自宅が理想。ホスピスは高い、経済的に心配かな？	
		65歳～	一人なのでいかに死ぬか考えさせられます。
		現在主人が（69歳）が自宅療養しています。3年半前、多発性骨髄症になり、淀キリで1か月に1回診療し、抗がん治療しています。自宅で過ごせて感謝しています。	
	ホスピス病棟は希望すれば入れる余裕があるのか、知りたい。		
何もわからないので、勉強したいです。			
双方の両親&犬も見送り、残るは自分の死あるのみです。			
夫婦2人の生活なので、患者の介護が大変だと“自宅看取り”は難しい。			
経済的にどこまでできるか困難。			

		かかりつけ医の協力のもと、緩和ケアや日常のQOLを高めるために相談しながらやれたらと希望しています。実現は難しいかもしれません。
		家族については、できる限り本人の希望に沿いたい。
		末期がんになれば、これまで通っていた（入院）病院に入院するのは難しいと思う。やはり専門の病院に入院し、少しでも心地良く暮らしたい。
		自宅療養したくても、派遣してもらえるヘルパーさんの数が足りていないように思う。また、ホスピス病棟やケア病棟も足りていないのではと思います。
	75歳～	分からないのです。
		苦痛のないのが一番と思う。
		今のところ、家族の中にガンと診断された人がいないので、その時にならないと分からない事ばかりです。
		在宅ケア、ホスピス治療をすれば経済面を心配する。自分の意思を記しているが、その通りになるか心配（治療はしないこと）。
		一人の生活なので先のことも考えますが、今は元気で働いています（看護師）。感謝の日々です。
		緩和ケア病棟が良いが、いくらかかるのかが心配。
		希望と現実には差があります。
?	65歳～	実際に、母を家で看取りました。肺がんでした。

4. コメント：(小澤)

(1) 総括：講演のアンケートの回答率60%を上回る回答を頂いたことに感謝。自由記述の一つ一つを大切に読ませて頂き、少しでも市民の希望にかなうように、今後の活動に活かしていきたい。

(2) 終末期を過ごす場所の希望：(表1)

1位：「自宅で過ごし、必要になればホスピスに」52% 実現可能と考えている人29%。

2位：「最期まで自宅」28% 実現可能と考えている人41%。

⇒これらのご希望が叶えられるように、医療職、行政など皆さんと活動を強化したい。(*)

(3) (家族を) 終末期を過ごす場所：(表2)

1位：「自宅で過ごし、必要になればホスピスに」40% (但し、「病院へ」を入れると57%)

2位：「最期まで自宅」27%

これまでの他のデータによると、「最期まで自宅」は、自身の場合より家族の場合の方が高いとされていたが、このデータではほぼ同じ。

(*)'08年3月に、同様のアンケートを頂きました。回収：333名。

1位：「自宅⇒ホスピス」48%。「自宅⇒これまでの病院」27%を加えると75%。

2位：「最期まで自宅」12%。

⇒「最期まで自宅」が +16%、「自宅⇒ホスピス」が -18%。と、変化が見られます。

以上